2025年6月1日～6月30日分

未来式

金粉短詩系文藝ショー

川柳のほか短歌や俳句ぶなどもあるよ

復活公園③

5月には5月の、6月には6月なりの雨が降る。そして、その中で人は人として生きてゆくしかない。そんなことはわかっているのだが、そういう雨がどうしても気に入らんこともあるのだ。うしゃしゃしゃしゃ、とどこかのじいさんが笑っている声が聞こえるが、爺さんは実在しない。そういうものだろう。そういうものなんだな、すれ違うということは。つまりは、それだよ。すれ違いを、意図しているわけだ、川柳は。どこの、誰とのすれ違い?それは知らない。しかし、得合った人とのすれ違いには違いないだろう。難しいぞすれ違わないようにすることは。しかし、すれ違いを意識的に作ることもまた、それと同じような具合に難しいのだ。流れてゆく。放り出しておけば知らない間に流れてゆくよ、だからこそ、ここは歯を食いしばって、一日10句をひねり出すのさ。流れゆかないように。あるいは流れゆく、まさにそのために。

6月1日（日曜日）分

■短歌

6月に戯れに焚くストーブの
炎に罪の匂いする朝

■俳句

田植えする娘の瞳に恋をした

■川柳

料金はいくらですかと聞く罪よ

盗み見た身体の中の秘密あり

図版みて指名するのはどうかしら

さかむけを一挙に剥いで悶絶し

おにぎりを頬張りながらまた作る

鬼ごっこしながら本気になってくる

きみのこと押し倒してもいいですか

背の高い人と比べて背が低い

読書の日設定するのを忘れてた

『リア王』を前に読んだの忘れてた

6月2日（月曜日）分

■短歌

なにげなく触れてみたれば柔らかくお前の肌のその奥のもの

■俳句

いちご狩りして誰に狩られたるか

■川柳

うきうきとする心の中の咎について

ざわめいた心の底の地獄たち

蝶なるや蛾なるや心を乱すなり

サンジャポのゲストに出演する野望

ホームラン以外に何の価値もなし

飛び込んで底の底まで探し出す

ド根性みせて僕らのえろがっぱ

小学校の同窓会の男女です

大門の周りにできる行列

初恋の人と出会って逃げてゆく

6月3日（火曜日）分

■短歌

蒸し暑き日の思い出の奥底に
ひとかけ凍り付くもの

■俳句

ひきがえる反則王の面のごと

■川柳

今日も出たあの風俗の宣伝車

どついたろーと思わす人が5人いる

泥鰌掬いしたそのままで、ベッドイン

猿沢の池で本日猿祭り

踊ろうぜ、本気になって、三時まで

チークダンスで、摩擦して血まみれ

青森には人参がないって誰かが言ってた

四次元の威圧に負けて素っ裸

あほな人は放っておくのが僕の主義

気味悪いメールする人ストーカー

6月4日（水曜日）分

■短歌

蚯蚓いて久しぶりだと呟いて
蚯蚓のように身をうねらせていた

■俳句

みみずの日制定したくなりにけり

■川柳

上々の出来だねと君嬉しそう

うろたえてばかりのお前逃げてゆく

残念な人ばかり言って過激団

自転車で行けないならば 走ってく

手放しで2人乗りする人生もう いいね

宅配の怪しいやつを尾行する

走るのが苦手なのなら 寝そべろう

動画撮る暇があるなら 飯食らう

行く末うを案じてさむし春の風

ゲイラカイトで通勤できたら良いね

6月5日（木曜日）分

■短歌
コソ泥の真似してコソ泥になる人々の気持ち真似てる

■俳句
まずところてん食べてから君と寝る

■川柳
シャッターの しまった部屋で踊ってる
首締めて顔面パンチ YouTube
背の高いビル 眺めてはめまいして
公園を掃除する人 花吹雪
アルマジロ 競争したら負けません
アナグマ に背を突っつかれ 早く行く
動物園 間近で見ると 君の顔
あくまでも裕福な人 心だけ
100年も生きていたなら幸せだ
どうにかこうにかやり過ごした

6月6日（金曜日）分

■短歌
ニーナてふ女が夢に現れて親しく過ごす我
が存在を問う如く

■俳句
油虫背に跨って通勤す

■川柳
このやり方 分かっているなら 大儲け
こんなのでいいならいくらでもやるよ
隣の子 スカラシップに落っこちた
英語などもう今更は要りません
翻訳機で体も 翻訳 ラテン系
ラテン より ガテン だろうと 君笑ふ

想像力 なくなってしまって飯食らう
駅近 し電車が来るなら 止めてやろう
もやもやとした 頭持って春をゆく
留学生のことを愛する気持ち 大なり

6月7日（土曜日）分

■短歌
ドライフルーツをすかして見える天空の
その中にだけ君が見えた

■俳句
蝿たたきの穴の向こうに彼がいる

■川柳
自動扉 どうして開ける気になった?
あと50年生きていれば 妖怪だ
歯が痛いのは肩が凝ってるからだろう
歯が痛いのは虫歯ができたからだろう
歯が痛いのは絶望しているからだろう
歯が痛いのならば 切ってしまえ歯など
階段は絶対前には進めない
100ぐらい すぐに作れる気がしない
どうでもいい気持ちばかりが湧いてくる
好きすぎて好きすぎて 君 泣き出して

6月8日（日曜日）分

■短歌
パン屋ならパン屋の唄を歌うだろう
俺なら何を唄えば相応しいのか

■俳句
パセリ焼く遠き家屋の日の香り

■川柳
エンジンをかける間に冷えてしまう
さあ お前どこまで行くのか知らないぞ
気温が鳴ったらなったで へちまだね
焼肉とスイカとどちらがいいですか
パイナップルみたいな頭の人が行く
さあ来いよもっともっと来いよお前
自動車が通り過ぎてる 緑色
ビル街を歩く 谷間の水のごと
ネイティブの日本語 ならば 教えてよ
パソコンを閉じる方法わからない
パソコンを開くボタンも見つからない

6月9日（月曜日）分

■短歌
人生を唄うなお前犬ならば
犬としての生を生きろもっと

■俳句
紫陽花を見て泣きはじめたる蝸牛

■川柳
ルールなどないに等しい人生だ
がんもどき 食べてみた ならただの豆腐
ベーグルに乗って宇宙に太っ飛び
さらば 皿 俺 机の上で食べてます
コカコーラ 飲み過ぎて顔が真っ黒に
鉛筆でツッツキ やって幸せに
あほどり 俺のとこまで飛んでこい
陸上 も 亀だと思えば少ない
アンデルセン童話を読んで泣きました
自転車を漕ぐ力などへの河童

6月10日（火曜日）分

■短歌
ゆりかもめに乗ってどこまで行くならば
決して席を離れたりしない
■俳句さ
仙人掌を焼いて炒めていい気持ち
■川柳
留学生　笑う間に通り過ぎ

廊下など立たされたことしかないんです

ゼニガメの亀を取ったらただの銭
シャープペンシル　鈍くなったらどうするの
白線を LINE マーカーで塗り絵　する
銀座なら行ってみたいぜ　僕の夢
京都にも　銀座　ぐらいはありますよ

銀座てふ Bar で飲む俺見栄っ張り

車椅子一生　押して過ごしたい
アスファルト　ドロドロになって俺みたい

6月11日（水曜日）分
■短歌
いつからか最悪という言葉など
巷に流れるようになり最悪
■俳句
干乾びた毛虫見た日に夢精する
■川柳

最悪の日々から3分経ちました

愛人とその愛人とその愛人と
下品さは言うまでもなくピカイチだ
曇り空　その向こう側に何がある
あいうえおとか言ってみて今朝の僕
散々な気持ちは解決できません

カメムシに会った途端に亀になる

人狼　という名の友達がいた気分
この町の　この通り　歩いて生きている
夏なのにスーツ　決めてるサラリーマン

6月12日（木曜日）分
■短歌
木曜日にちょうどいい子とベッド行き
ちょうどいいこと少しだけする
■俳句
もし俺が柿なら好きになってくれる？
■川柳
それ俺よクールビズを真っ向否定

服を着たワンちゃんの気持ちになり泣く

どことなく君に似ている君の犬

オスなのにメスなのに　とか言うな
ややこしい人種は我ら日本人
ネパールの国から来た人たちに感謝する
頭から首輪を下げた人がゆく
それはさあ首輪じゃなくて　ネームプレートよ
飲みに行く前に王将で飯を食う

空高く何かがつり下がっていますね

6月13日（金曜日）分
■短歌
名を問えばサルバドール・ダリという
間違いなくそういったのだ彼は
　―フランスにて
■俳句
蛍と烏賊その間に見いだせり我が在処
■川柳
1000ぐらい　いくらでも言える言い訳
どことなく王様になった気分です
王様ゲームで無茶な要求を出す
君のこと3回ぽっちり食べたいな
これ以上場末のホテルの物語
ジーパンをユニフォームにする人がいて
野球人宇宙人ほど空を飛び
こんなにも努力したのにアネモネね
賞品のアネモネもらって蹴散らかす
飛ぶ鳥の君の気分になりたいね

6月14日（土曜日）分
■短歌
炎天の街を歩けばあの頃の風景全く消えて呆れて
■俳句
水音や月下美人の下に立ち
■川柳
赤信号車上と一体化しています

バカならば　馬鹿らしい生き方やってくれ

そんなにも　私のことを待ってくれ
劇団と劇団員と観客と
恋をする暇などとてもありません
どぶろくを自分で作ってそれで飲む
ビールなら生サーバーを買いましょう
私たちと一緒に作って呼ばないで
よくわかるとか俺にメールすんなバカ
発想が陳腐なお前のおままごと

6月15日（日曜日）分
■短歌
乱射する光の粒の厳しさに今こそ　サングラスのワニのこと思う
■俳句五月雨
五月雨の中に我らの記憶あり
■川柳
テクマクマヤコンという言葉が頭から離れん
掃除しよう頭の中を掃除しよう
いくつまでやってられるのかなスイミング
ストレッチする前の日に足をつる
トマト食べトマトのつるを思い出す
どこまでが今日でどこからが明日？

どこまでが私でどこからが犬？

どこからがトイレでどこからが風呂？

どこからが虹でどこからが空?
どこからが自転車でどこからが靴?

6月16日（月曜日）分

■短歌
走り去る彼女の姿が目に浮かぶその時俺はどこから見てた

■俳句
でんで虫憧れの果て籠りいて

■川柳
どこらが皮膚でどこからが肉?
どこからが呰どこからが野菜?
どこからが電話でどこからがメール?
どこからが普通でどこからが 狂気?
どこからが岡田でどこからが岡村?
どこからがビールでどこからが発泡酒?
どこからが画面でどこからが空気?
私のという挨拶のそれぞれらしさ
鼻につくその言葉はゴミ箱にどうぞ
あっしならもう全面に知ってます

6月17日（火曜日）分

■短歌
吊るされて気に入って買う柄シャツがヤクザものの制服と知らずに着ており

■俳句
たらふくに麦酒を開けた日々のこと

■川柳
このところ 絶好調で心配だ
俗に言う俗っぽいやつゾクゾクと
菜の花畑を食べてみたいと思いますか?
栗の木の匂いがするから退散だ
尾行する の人の後尾行する
ジョッキまでいっぱいになりおののいた
もう二度といたしませんよこんなこと
もう二度と食べ尽くしません勝つまでは
もう二度と なんでもう二度と言わないよ
颯爽とニュースを配る配達員
それならばSNS でおやりなさい

6月18日（水曜日）分

■短歌
白線と白線との間をつなぎながら線と言うべき点というべきなど悩

■俳句
短夜やわれここにいてきみ居らず

■川柳
連続する魂はハサミで切れ
魂をハサミで切ったら儲けもの
独特の気持ちで生きるこの日から
予備校の古い宿舎に素泊まりす
これぐらい教えてくれたら感謝する
めんどくさい気持ちになったら帰ります
ここからは縦のものを横にする
地底族俺を代表にしてください
スピーカー壊してしまい箱なんか
ダダダダと音がしたら俺の音

6月19日（木曜日）分

■短歌
行列の一番後ろについていく 情けな き身の立場は憐れみ

■俳句父の日
父の日に父母すでにここになし

■川柳
心配になってきました君の金
ちょっとぐらい分けてくれてもいいんじゃない??
昼寝するお前の頭上に釘を打つ
オークション俺ならいくらで売れるかな?
投げ銭をたんまり投げて持ち帰る
死ぬくせに元気だなんて言わないで
僕はもう笑っちゃうしかないんです
鉛筆削りってもう死語なんですかね
それではさ鉛筆かじりってどうですか
それぞれ削りがない時噛みますね?

6月20日（金曜日）分

■短歌
内輪差で巻き込んじゃった変なもの捨てていいのか届け出るのか

■俳句
昼顔に相手にされない朝

■川柳
信号のない道で一生待ってたい
関西人が野蛮だって誰が言うの?
野蛮なのはツンとしました京都人
スマートフォン泣きながらしゃべる人がいた
犬みたいな人が自転車に乗っています
犬文字焼きというギャグがありましたね
派手すぎるベレー似合わぬそのおやじ
頭の毛ないなら埋め込んでしまえ脳
脳みそを取り出す気分で話します
さあさあここからですよ俺ならば

6月21日（土曜日）分

■短歌
一旦は 解放されたこの身体いつまた捕まるか分かりなどせぬ

■俳句
さくらんぼを一日中舐めてた

■川柳
一週間しゃべり続けて猿になる
おてんばな娘と猿の相似系
お前なら俺との二相系たちも

もっともな理屈を言う人カバの孫
そこならばスクーターでなら2日です
ちょっと待ってエレベーターで駅まで行きます
わはははと笑う人など誰もない
尻尾切る段階で身体半分だ
太すぎる本を書く人妄想狂
どこまでもついてゆきますお前なら

6月22日（日曜日）分

■短歌

東京を終えてその後怒りわきポスターを破る票は有効？

■俳句

夏至の話題を十年続けた

■川柳

天が割れ俺の卵も割れ初め
　→天が割れ明日卵も割れはじめ
蚯蚓這う時期にこの地のべらんめえ
ロキソニン飲んでさあさあ今日もゆく！
旅人に手渡すものは何もなし
馬の鼻引けば世界が動き出す
鳴り響く轟音リングへの出発
サンダーボルトの電圧計算する
行く末を思うことなく旅立ちぬ
最終回見ないままトレンディドラマ
ピアニシモ心の中の出発点

6月23日（月曜日）分

■短歌

真っ黒のスポーツカーに乗りながら手を振る人に手を振っている

■俳句

鮎釣り競争の朝熱が出る

■川柳

出発が遅れていますよごめんなさい
螺子巻いてさあ動き出しますガシャガシャポン
もうすでに出発時間は過ぎてます
泣き真似をしてもうすぐ行かなくちゃ
depature と訳すのですね　さよならは
盗賊の首領について出かけます
出かければパチンコ玉が降ってくる
あら嫌だ出かける時間を忘れてた
こんなもの放り出しちゃえ出かけます
出かけてはすぐに帰ってまた出かけ

6月24日（火曜日）分

■短歌

灼熱の路面電車の沿道を歩く舞妓の
髪の濡れたる

■俳句

梅雨の日の我ら君に憧れつ

■川柳

華麗なる緑色娘晩夏の霊安室
緑閣に過ごす我が余生と破壊夢
長城よりみゆる視界に緑なく
破廉恥な緑の水着に身を包み
苦しんで苦しんでなお緑色
緑色に人生訓を委ねおり
緑土なれ茶土なれ我もそこに眠り
緑地公園は緑だとは限らない
ピルトルを緑に向けて打放つ
このようにそのように咲く花の色

6月25日（水曜日）分

■短歌

木陰にてシャドーボクシングする人の心の中の無を言い当てて

■俳句

白玉をうのみにしてはいけません

■川柳

悠々と育って今は緑色
春五月ふさわしい色探しおり
☟六月のふしあわせ色探してる
☟六月の幸せ色を探してる
段々と遠目に緑増えてゆき
電話してきた最後の日は緑色
井戸の中緑の匂いがしています
我差しおいて咲き誇る花々の背景は緑
遠出して緑の上に横たわり
苦痛ですなあ身体についた黴
チョコレート色の愛情と抹茶
悠長なこと言ってると枯れちまう

6月26日（木曜日）分

■短歌

ロシアよりやってきた君のパスポート獲得するまでのその物語

■俳句

六月の不穏な日々とさようなら

■川柳

座ったまま　物が作ったりできるかな
電車の中で電話するふりして　句を作る
窓の外　雲が流れる　危ないぞ
ブルーシートだらけの地域　雨が降る
傘立てに傘が1本もありません
車庫の中　車両がたくさん並んでる
パンタロン履いた人が踊ってる
夜明けまで喋り続ければ西鶴だ
楠が墓場のような色をして
線路沿いとぼとぼ　歩く人を見た

6月27日（金曜日）分

■短歌

絶対にそれだけは嫌お願いと言われたことなど一度だってない

■俳句

幼くてダチュラも愛もまだ知らず

■川柳

死に物狂いとは何だろう不思議な言葉

駅前のゴーストタウンで土産買う

駅前に軍事車両が並んでる

あと5年をすれば兵隊さんがやってくる

兵隊もSNSを使ってる

テレビ消しトランプ野郎にとどめさす

コーンの並ぶ道をジグザグ歩いてく

伝わんないしゃべんなければ伝わんない

プレッシャーかけすぎて自分が潰れちゃう

ポスターになった　朝なら顔洗う

6月28日（土曜日）分

■短歌

てんてんと続く笑顔のその先に我ら何を探すべきか

■俳句

ソーダ水を飲み干して、走る

■川柳

ラブラブの二人を見ている変な奴

トイレでも風呂でも部屋でも唄います

誰一人気づくことない君の傷

誰一人気づくことない僕のキス

大地震必ず入浴中にある

絞り出す乳と微かな知恵袋

酔っ払う前に戯言言っとこう

あと3歩歩けば棒に当たります

気がつけば微妙な距離の2人です

全力で走った後に仕事する

6月29日（日曜日）分

■短歌

狂人のその友人の狂人と3人で飲む宴席楽しや

■俳句

夏帽子センターフライで幕閉じて

■川柳

英語など不要の時期がやってきた

国際とは何でありましょうか日本人

インディアン追放された場所に居る

御所西の場所を譲って下さいな

自己紹介つまらんことを言う婆さん

どこからが枯葉でどこからが手ですか

アドバイスしても人は変わらない

毎回ね同じことしか言わないね

どんな人と一緒にやって行くのは嫌

ナタデココ食べましょどんどん飲みましょう

6月30（月曜日）分

■短歌

足先が折れているのに動けるかどうかを試し運動をする

■俳句

夏蒲団大巻き細撒並べいて

■川柳

五月雨の空に登り行く悪魔

ダレた服着ながらビシッとした女

ケツ拭くのは左手ですか右手ですか

右足と左足どっちが長いですか

私のは脳にめり込む心です

情報を俺だけくれとは言いません

僕だけに秘密の情報を教えてね

手榴弾持った片手で生きてゆく

さざなみのように息する生き延びる

背中見せて指導するってエロですね